

## ■第2回 沖縄交通リ・デザイン実現検討会 議事要旨

日時：2023年12月19日（火）13:30～15:30

場所：那覇第2地方合同庁舎1号館2階大会議室（オンラインでも開催）

出席者（順不同）：

- ・ 株式会社琉球銀行 金子氏
- ・ 株式会社りゅうぎん総合研究所 志良堂氏
- ・ 株式会社沖縄海邦銀行 高江洲氏（代理出席）
- ・ 株式会社沖縄海邦銀行 天久氏
- ・ 沖縄振興開発金融公庫 高良氏（代理出席）
- ・ 沖縄経済同友会 竹越氏
- ・ 沖縄県商工会議所連合会 福地氏
- ・ 一般社団法人沖縄県経営者協会 玉那霸氏（代理出席）
- ・ 沖縄電力株式会社 川満理事（代理発言：桑江）
- ・ 株式会社りゅうせき 玉城氏
- ・ 一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー 金城氏
- ・ 一般社団法人沖縄県バス協会 慶田氏
- ・ 一般社団法人沖縄県ハイヤー・タクシー協会 大城氏
- ・ 沖縄都市モノレール株式会社 上原氏
- ・ 沖縄県企画部 谷合企画振興統括監
- ・ 沖縄県土木建築部 金城建築都市統括監
- ・ 沖縄県文化観光スポーツ部 大城氏（代理出席）
- ・ 沖縄県教育庁 喜久本氏（代理出席）
- ・ 内閣府沖縄振興局 野本参事官
- ・ 内閣府沖縄総合事務局運輸部 企画室 村上室長
- ・ 内閣府沖縄総合事務局開発建設部 建設産業・地方整備課 久場課長
- ・ 内閣府沖縄総合事務局開発建設部 道路建設課 屋我課長
- ・ 内閣府沖縄総合事務局経済産業部 エネルギー・燃料課 長嶺課長

※配布資料

（資料1）PI第1フェイズ実施結果報告 実施概要について

（資料2）PI第1フェイズ実施結果報告 得られた声について

（資料3）今後の進め方

（参考資料1）PI第1フェイズパンフレット

（参考資料2）オンラインアンケートの実施概要

■ 事務局よりパブリックインボルメント第1フェイズの結果について報告。（資料4）

■ 意見交換 各委員の主なご意見は以下のとおり。

- ・多くの人が現状に問題があると認識しており、沖縄特有の送迎問題が浮き彫りになっている。企業が従業員等への施策をどのように提供していくのか考える意味で良いと調査だったと思うので周知していきたい。
- ・ビジネスの質の低下という点で、交通手段によって勤務地や働き方が一定程度制限されるという課題が明確に声として出ている。人口減少も踏まえ、交通結節点を含めて車以外の公共交通利用をどう促していくか議論していきたい。沖縄経済を着実に発展させるという観点からこの議論を今後も進めていきたい。
- ・公共交通の利便性を上げる事で利用者増を見込めるに感じた一方で、運転手不足問題も解決しないと厳しい。観光バス事業者にも公共交通を担ってもらう仕組みづくりも必要ではないかと感じた。
- ・若者の車離れが進み、レンタカーでしか移動できない観光地を避ける傾向にある点が気になる。空港含む各地とホテルをつなぐシャトルバスといった交通手段についても充実させる必要がある。モノレールの混雑問題も改善しなければならない。
- ・事業者はコロナ禍で影響を受け、足下では人手不足や燃料価格高騰の影響を受けている。その一方で渋滞や車の数が減らない・時間がうまく使えない等の問題も生じており、解決策を検討する中でパークアンドライドや無人バス導入といった過去の施策を振り返って適用する事も有用ではないか。
- ・公共交通利用の促進には一定の経済的なインセンティブが必要と考えるが、強制的に公共交通利用を促す意見はやや踏み込んだ意見と感じている。
- ・沖縄の交通問題をいきなり1つの解決策で解決するのは難しいと考えており、様々な解決策が必要になってくる。未来のエネルギーである水素の取り組み等を模索しながら進めていきたい。
- ・沖縄の理想の社会を思い描き、バックキャスティングで解決策を練るのというのは良い考え。
- ・移動手段が車に限られる、移動に時間がかかるといった沖縄の交通問題が働き方へ影響を与えるという事が本調査においてフォーカスしている部分。その点を改善可能な施策を考えていきたい。
- ・調査の結果は意見をいただいた住民や団体の皆様と共有し、幅広く考える機会を設けたい。働き方やエネルギー等については直ちに変化が見込める課題ではないが、どうしたらこれらを変えていくのかと一緒に考えていきたい。
- ・2024年問題では確かに交通機関は限界との声があるが、公共交通を利用することで交通産業を支えていくことが重要になる。どういった未来を選択し、描いていけるのか。様々な意見もある中で、どのような意見が皆さんと共感が得られるかを重視して考えていきたい。
- ・重要度・スピード感をもって整理することで短期・中長期的にやることが分かれる。また、離島は本島と別に考えることが必要。
- ・レンタカーを返却する際に早めに空港に戻るため、その分機会を逸しているとの声があった。改めて問題意識をもつ必要がある。また、インバウンドは交通手段についての事前の情報発信の必要性を感じる。
- ・様々なシステムやAI技術が発展している中、渋滞解消については、例えば渋滞状況に応じて信号の点灯時間を変えるといった技術を沖縄でも適用できるのか議論してもいいと考える。
- ・2024年問題ではバスの減便等が必要だが、これ以上は今のところ必要ないと認識。一方で利便性向上ではバス便の充実が前提。県の支援をいただきながら運転手を確保していきたい。

- ・ 県からの高校生通学費補助はまだ浸透していないと感じるので、告知、プロモーションが今後も必要。モノレールとの結節においては認識していない方も多くいる。バスダイヤとどう繋ぐかは大変難しい問題である。
- ・ 公共交通への乗り換えで利便性が高いのはタクシー利用アプリだと考えている。アプリ等を知らない方も多いのではないかと感じるため、アプリに関する情報を県民にも共有していく。
- ・ モノレールは今年 3両車両の運行を開始。中国からのインバウンド需要回復も考えるとさらに輸送人員が増える見込み。結節点問題や県民の認識の問題があると考えているので、連携し取り組んでいきたい。交通系 IC・タッチ決済についても県民の要望に応えられるように取り組んでいきたい。
- ・ バス通学費が家計への負担となっているといった声もあるが所得制限の額を広げて支援していきたい。来年以降も支援を通じて学生たちの進路実現へ向け努力していきたい。
- ・ 観光客の多数がレンタカーに満足している一方、公共交通が充実していればそちらの利用も望んでいるとの声があり参考になった。昨今は人手不足や 2 次交通の課題が存在する。補正予算の増大等で解決に向けて努力しているが、引き続き検討していきたい。
- ・ 県民の生の声のようなデータは活用した経験がないことから非常に有意義なもの。今年度、中南部都市圏でパーソントリップ調査を実施しており、今後詳細な分析を行う。ハード整備と県民の生の声をもとにしたソフト施策を掛け合わせることで、まちづくりに関する多様な解決策を導入できるのではないかと考える。
- ・ 声をもとに改善方法を検討したい。様々な課題について議会からも同じような声をいただいている。これらをどう合意形成していくか、検討会の皆様とも意見交換しながら検討したい。
- ・ PI 第 2 フェイズでは、今回ご紹介した声を踏まえつつ、どのような交通やまちの形が望ましいのか、住民や観光客からの声を聴きっていく。また、その実現のために、皆様と分野を超えて連携していくよう更に議論を深めていければと考えているので協力をお願いしたい。

以上